

case  
15日本建設躯体工事業  
団体連合会

- ◆業種 … 専門工事業(とび・土工)
- ◆会員数 … 全国8団体
- ◆受検者数(累計) … 636名(令和6年度見込みを含む)

コンクリート打込み・締固め工に係る社内検定を構築することにより、躯体の最終品質となるコンクリート打設に専門特化する土工職のステータスの向上、賃金の上昇、確固たる一つの職種としての確立等に寄与している。

### (1) 社内検定制度の概要

一般社団法人日本建設躯体工事業団体連合会(以下「日本躯体」という。)は、「コンクリート打込み・締固め工社内検定」について令和3年3月に厚生労働省の認定を受けている。

コンクリート打込み・締固めについては、技能検定の対象職種でもなく、建築物の品質を決定する重要な要素であるにも関わらず、その社会的地位が十分確立されていないため、就労者の高齢化や、他職種に比べて賃金が低い状況等を招いていることから、社会的地位の向上等を目指して、構築されたものである。

なお、内部振動機を適切に操作し、2級では、一般的な形状の型枠内部へ適切(密実)に、打込み・締固めができる技能が求められるのに対し、1級では、配管や階段下などの複雑で狭い型枠内部へ適切(密実)に、効率的な打込み・締固めができる、より高度な技能が求められている。

### (2) 背景・目的

コンクリート工事でコンクリートの打込み・締固めに従事するコンクリート工は、コンクリート構造物の品質を左右する重要な職種であるが、低賃金で魅力のない職種として、若手入職者が減少し、作業員の高齢化が進み、将来が危ぶまれる状況にある。

このような事態を改善するための課題として、以下のことが考えられている。

- ①設計労務単価に、コンクリート工の設定がなく、土工職として扱われる。
  - ②専門技能があっても、軽作業員と同じ職種になっている。
  - ③主業務である、コンクリート打込み・締固めは、肉体的負担が大きい。
  - ④社会的な認知度が低く、他職と比較して専門技能や肉体的負担に対する賃金が安い。
- こうした課題に対処するため、躯体の最終品質となるコンクリート打設に専門特化する土工職にもステータスを与え、実質賃金の向上を図り、一つの職種として確立させるため、本検定を立ち上げ、公的な認定を受け、社会にアピールしていく必要があった。



### (3) 構築前後の取組

#### ① 認定前

実地試験の資器材の決定に苦慮してきている。当該検定の内容は型枠に適切にコンクリートの打込み・締固めを行うことであるが、生コンクリートを

そのまま使用することは、廃材の関係あるいは試験型枠の関係から行うことが不可能であったため、生コンクリートによる作業と同等な作業を行うことができる試験材料の調整に、困難を来した。

また、実施に当たる手法（内部振動機の採用の決定）についても検討が必要となったが、その他の実施手順等のほか、前記試験材料の検討も併せ、日本大学中田教授等の学識経験者のお力をお借りして検定の構築に努めるとともに、引き続きご助力いただいているところである。

## ② 認定後

実地試験に際し検定員が必要となり、当初、必要人数を3名としたが、試験に伴う負担が大きく、また、固定化されてしまいがちである。そのため検定員の養成について、考慮してきたが、養成しきれていない。一方、収支の面からも検定員の省力化が必要と考えているが、検定員の練度を考慮しても、検定の正確性確保の観点から限度がある。なお、1級の受検者は、毎年ある程度確保できているが、2級の受検者は若年の就労者が少なく、徐々に減少している実態があり、対象者の拡大が見込める団体等検定への移行が望まれており、その準備を着々と進めている。また、実技試験を行うため、ある程度の広さを持つ会場が必要となるが、適地の確保が困難となっている。

## （4）人事制度・待遇面との連携

本検定の実施者である日本躯体においては、技能者を直接雇用しておらず、昇給、賞与等に反映させることや、昇進の決定を直接行うことはできないが、会員団体を通じてその傘下の構成員に対し、合格者の待遇面への反映を強く勧奨している。

現在、建設業就労者への処遇改善の動きは強まり、建設業法の改正などの施行と遵守など官民一体となって進められているところでもあり、一層の努力が必要と考えている。

## （5）構築の効果・メリット

日本躯体は、各地区団体（北海道、東北、東京、東海）で構成する一般社団法人である。また、定款では「建設躯体工事に関する技術及び技能の向上を図るとともに、建設躯体工事業者の社会的、経済的

地位の向上に努め、もって、建設業の健全な発展に寄与すること」とされており、主にとび及び土工事業者の団体である。本検定は、そのうち土工の処遇及び社会的地位の向上のため創設したものであり、

（一財）建設業振興基金が運営しているCCUS（建設キャリアアップシステム）の認定資格とされるとともに、CCUSに登録する場合の技能者の格付けに係る能力評価基準の対象資格として位置づけられており、土工の地位の向上に資することが期待される。なお、傘下の団体に対しては、本検定の合格者に係る技能者の格付けに当たっては、CCUSでの取扱いを踏まえて行われるよう、勧奨しているところである。

また、本検定の構築により、コンクリート打設に関わる公的な認定を受けた社内検定制度が整備されたことは、土工職を若者が誇りをもって将来を託せる職種に転換させられる契機となるものと思われる。さらに、躯体の最終工程の品質を造り込むコンクリート工の存在感を社会全体に示すことで、エンドユーザーからも好感され、土工職の地位向上が建設業界全体のイメージを大きく変える可能性も秘めており、大いに期待している。

